

リース業界はファイナンスリースや割賦など伝統的な取引が成熟状況にある一方、環境エネルギーなど成長分野への注力や、資産管理の高度化を目的とする「モノ」に付随するサービス提供などに事業領域を広げている。業務環境が変化する中、業務効率化に向けた基幹システムの再構築や、多様化する事業領域にスピード感を持って対応し得る柔軟性の高いシステムの必要性が高まっている。

こうした課題の克服にはデジタル技術やク

リース業界最前線

05

クラウドサービスの活用が必須であり、リース業界でもさまざまな取り組みが行われている。

作業のRPA（ソフトウェアロボット）による業務自動化）活用や、電子契約・電子帳票サービスを提供するクラウドサービスの導入などは、社内業務の抜本的な省力化と働き方改革を促進する「デジタルゼーション」の領域だ。

また、場所や環境に囚われないウェブ会議やリモート商談、携帯端末を接点とした取引

ITによる課題解決の提案力拡大

モノ・情報・企業デジタル結合

先への情報やサービス提供、マーケティングオートメーション技術などを駆使した商品案内などは、これまでの社内業務や取引先とのビジネスのあり方に変革をもたらし「デジタルトランスフォーメーション(DX)」と言える。

さらに、モノのインターネット化を可能にするIoT(モノのインターネット)技術やモバイル技術はリース業務との親和性が高く、モノの位置や状態をリアルタイムかつ、遠隔でも管理できる画期的なサービスを生む

だろう。リース会社が得意とする「モノ」を起点にした、これまでにない新たなビジネスモデルを創造する「デジタルイノベーション」の領域だ。



三井住友ファイナンス&リース常務執行役員

並木 洋一

こうしたデジタル化を進めるためには、顧客と接するフロント部門とシステム部門がチームとなって、素早くシステムの開発やレベラップを行うアジャイル開発を可能にする体制の確立が重要だ。

また、世界的にサイバー攻撃の脅威が高まっており、セキュリティと利便性の両方を満たす商品開発ルールの徹底も一層求められている。

モノの知見やファイナンス力を強みとするリース業界だが、リース業界だが、リースやファイナンス商品だけで顧客の課題を解決可能な開発目標(SDGs)への貢献にもますます存在感を發揮できるだろう。

（隔週木曜日に掲載）